

特集2

実践のための 協同教育

学生が意見を出し、
対話を促す
仕掛けづくり

今、協同教育（協同学習）がますます注目されています。それは、学生が互いに学び合い高め合うことを真の目的としており、従来型の教師から学生への知識・技術の伝授という教育の枠を超えた、「人を育てる」教育の1つです。

一方で、目的や課題が曖昧なままの実践は、学生への押しつけとなります。初等・中等教育では教育方法の転換により多くのグループ学習・活動が導入されましたが、その押しつけは「学び合い苦手学生」の誕生にもつながりました。

協同教育を効果あるものとするためには、教師側の仕込みや仕掛けが欠かせないと実践者は語ります。今回、教師にできることを対談やインタビューで深掘りしつつ、実践例や協同学習の基本技法についてもご紹介します。なお、協同学習の技法は実に多彩で、本特集でその全てに触れられるわけではありません。興味を持たれた方は、記事の文献や日本協同教育学会のワークショップなどもぜひ参考にしてみてください。